

各種審議会等審議結果公表シート

会議の名称	平成27年度第2回中津川市博物館等協議会
開催日時	平成28年2月19日（金）15時～16時30分
開催場所	中津川市鉦物博物館 研修室
出席者の役職名	委員7名 教育長・文化スポーツ部長・文化スポーツ部次長、文化振興課長・鉦物博物館長（兼青邨記念館長）・苗木遠山史料館長、中山道歴史資料館長・子ども科学館長・東山魁夷心の旅路館長・鉦物博物館館長補佐・学芸員・文化振興課学芸員3名
話し合われた内容 （会議録又は 審議概要）	<p>1 協議会委員委嘱、自己紹介</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>・協議会の公開について</p> <p>【会長】 本協議会は公開を前提としています。今後は公開ということによろしいですか。</p> <p>【委員】 異議なし</p> <p>【会長】 それでは公開ということによろしくお願いします。</p> <p>3 報告・協議事項</p> <p>（1）報告事項</p> <p>・平成27年度各館事業報告 各館長より概要説明</p> <p>（2）協議事項</p> <p>・平成28年度文化スポーツ部の方針と重点（案） 部長等より説明</p> <p>・平成28年度各館事業計画（案） 各館長より概要説明</p> <p>【質疑】</p> <p>会長</p> <p>今、それぞれの館の責任者から説明をいただきましたけれども、聞いていて何かご質問や意見はありませんでしたか。どこの館でも結構ですので。あるいは館長さん方も付け加えることがあったら言ってください。時間の都合ではしよった部分もありますので、一応手元の方には資料がいつていると思いますので、見ていただいて何かご質問がありましたら。</p> <p>委員</p> <p>東山魁夷心の旅路館でコンサートをされていますが、大変おもしろい企画なんですけれども、かなり費用がかかるのではないかと思いますので、その辺は</p>

いかがだったのでしょうか。

説明員

今回は 20 周年記念ということで、なんとか予算をつけてもらえました。それから地域の方からも協力をいただいております。そういった地域をあげた中で、賤母の道の駅と同じですので山口地域としましては旅路館も地域をあげた施設だということで皆さんお受けしていただいておりますので、今年はなんとか行うことができました。

委員

今回中途させて頂きますのでレポートにまとめさせていただきましたけれど、博物館全体に関わってということで 2 番のところを中心に述べていただきたいと思います。2 番の博物館に関わってということで 3 点意見として述べていただきます。今推進していただいている学校の方への参加型のことですね、それから来館者の入場ということを見ると大変よくやっていると考えております。これからは学校の方の立場としましては、学校の方と連携していただきながら推進していただければと思っております。それから 2 点目でやはり学術的な面も推進していくということもしておられて、ウェブ上に公開されるというご計画でしたのでそれはぜひ今後もやっていただきたいです。合わせてこの 1 番・2 番も推進していこうと思うと、次のところにも関わりますが、人的資源が必要ですので、できたら市の職員を拡充していただけたらありがたいですが、それが許さなければせめて非常勤職員あるいはボランティアの方などうまく引き継いでいただいて、人が変わると引き継がれないということもありますので、ぜひそこを働きやすい環境にさせていただいて高めていただければありがたいと思います。

また施設の中では、特に私は子ども科学館について一言、前にも言わせていただきましたが、11 月 3 日の無料デーにボランティアとして参加した際、前回見た時よりも雨漏りがひどいと思いました。危険なように思いました。末松先生の顕彰記念どころではないと、火事とか起こってはそれでは申し訳ないと思うので、屋根のことですので、電気施設でもありますから一刻も早く、その方が費用対効果が高いと思いますので、そこは事務局もあげて推進していただき、市の方にも働きかけていただき、早期の雨漏り対応を実現していただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

会長

委員からお話いただきましたが、これも含めて質問はありますか。雨漏りはそんなにひどいですか。

説明員

これについては私から。大変ひどいです。非常口をはじめ、常時雨が降った際に雨漏りする箇所はさわって遊ぼうというコーナーの部分と、2 階の倉庫の中、さらに非常口のところ、空気砲の部分が 2 箇所、更に箇所が増えていて、他には万華鏡の大きな装置の横の個所にも雨漏りがみられます。いずれにして

も前は雨樋等に落ち葉があってそれが原因ではないかという話もありましたがどうもそれだけではなくって、色々な部分から雨漏りしていますので、バケツと新聞紙と、この前のロータリークラブ主催のリニアの贈呈式もありましたが、その際も最初は雨漏り箇所に新聞紙がひいてありますのを片付けようかと思ったんですけど、一度見てもらった方がいいと思ってそのままにしておきましたけど、非常にそういう状態で、子ども科学館だけではないと思いますけれども、科学館はそんな現状です。

会長

というお聞きのように館長切迫した話になっておりますけど、それも含めて何か。これは他の館でもそういうことはあるんですね。

説明員

大なり小なりあります。

会長

他に質問ないですか。

委員

予算のことはやっぱりどの館を見てもそう思うのですが、すべての館で人がいっぱい来てくれればお金が増えるというようなものでもなくて、たくさん来ていただいてこれだけ活動しているから行政にお金をちゃんとおろしてくださいという風に言えることだと思って、私はここで発言させていただいたりしていることが多いんですけど、やっぱりどうしても公のものというところという採算度外視でっていう部分が大いにあるって、これだけ皆さんも頑張っている割には上になかなか伝わっていかないというか、全体に少ないのでなかなかおろてこないという現状は仕方がないにしても、やはりアピールをしていただいてもっと予算をおろしていただいて、協議会委員として一般市民の立場から来ている私からしてみたら、本当に子どもも喜んで色々な科学館を始め色々なところに参加しようとしていますし、この間も鉱物博物館で水晶も掘らせていただいたし、本当に教育という側面からも文化という側面からもすごく貢献度が高いと思いますので、ぜひそういうことも行政の上の方の予算をつけるところにアピールしていただきたいと思います。

説明員

ご意見ありがとうございました。委員からも会長さんからも委員からもご意見いただきました。まず一つにつきましては委員が言われるように博物館を運営しているのは人であります。そういう人間が色々な企画をつくったり云々という話をしたり、いろいろなものを考えて今ある施設をより有効に使えるような形でやっておるというところで、人的な問題としましては、職員という話がありましたけれども、なかなか全体的に減ってる中で多くの正職員というのは難しいというところもありますので、非常にそういう経験を積んで継続的にやれる臨時職員とかいうものをうまく使いましてやっていきたいと思っております。

す。それともう一つ予算のお話ですけども、非常に今市自体も財政が苦しい中なんですけども、本当に先生が言われたようにアピールをしていくというところが足りなかったことは反省しております。そういうところで今後はぜひアピールをしっかりと、できるものであれば、少しでも予算を獲得して良い施設を継続していきたいという風に思っております。

会長

委員よろしいですか。

委員

はい。

会長

この前、ちょっと私事ですけども、ある人から恵那の浮世絵の博物館は（中山道広重美術館）ばかりにテレビやラジオで宣伝するけども、中津川はたくさんあるけどあまり聞かないけどあれはどうなってるのかということで、宣伝するにはお金がいるだろうと僕は話していたんですけども、ここもやったことがあるんですけどね、やっぱりあれはお金がいるんでしょう。テレビであれだけ宣伝しようと思うと。

委員

あれはバローが協賛しているのではないですか。

会長

そうですか。

委員

という風に思っていたので。すみません、根拠はないです。

会長

展示物を入れ替えるたびぐらいに放送していますね。

事務局

各館では定期的に企画展・特別展をやるのですけども、いい事業なんです。しかしながら PR 下手っていうこともですねまだ反省点があるわけですけども、何かやるたびに新聞記者さんの方へ出向いて行ってぜひとも取材をお願いしたいとかタイムリーな情報提供をしてやることによってそういう新聞にも取り上げていただけたらと思っております。折角の事業ですのでそれぞれ頑張ってやっていただけてるところですけども、皆さんに知ってもらわなければ折角の事業が台無しになりますので、少しでも多くのマスコミを巻き込みながら PR をしていきたいと思っております。恵那市の浮世絵美術館につきましては、そういう今回はどの浮世絵を展示するのだとか、そういう形の PR をして新聞には載っているのだろうと思っております。

会長

先程から出ているように入館者の数というのは色々な意味で大きな今後の予算とか色々なことの大きなファクターのひとつになるのですけどもね。ですからできるだけ PR していただいて、事実ここ 2 年ぐらいの間に急激に入館者

が増えていませんか。それぞれの館ともに。

説明員

後程説明しようと思っておりましたが、資料の最後の2ページが各館の施設の使用状況となります。資料4-1とありますのが平成27年12月までを平成26年12月までと比較した増減です。全体で19,916人は増えているという統計になっております。一番下の所が年々の増加ですけれども、今年につきましては遠山史料館をはじめ、中山道歴史資料館等相当増えているという現状となっております。

会長

それぞれの館が先程それぞれの館長さんからの説明を伺って、それぞれが少ない予算の中でできるだけ努力をしているということはよくわかるのですが、いざ実際に数の上で人が入らないとなると大変ですが、今のように以前と比べてやっているとは思うのですけれども。何かほかにありますか。

委員

今宣伝とかの話がありましたが、僕たち立場上市民として、今鉱物博物館が何をやっているかを知りたい場合に、それを知らせるものが多分無いと思うんですね。例えば今中津川文化会館と東美濃ふれあいセンターは毎月1日に新聞の折り込みで行事をすべて発表してます。それと同じようなことを5館共同でそういったものを作って、月に1度ではなくても、2か月に1度とかそういう風にして出したらどうですか。ただ自分たちの方で、自分たちはやっているよと言ってもそれは度合いが小さすぎて市民のもとまでは行っていないような気がします。やっぱり市民がここ行ってみたいなどこれとっておいて壁に貼っておこうかというような企画は簡単なものだと思いますし、そういう努力をしないと。数字はただ羅列してあるだけであって、果たしてこれが正確かどうかは、信頼しなければいけないものですが、そういった意味ではもっと市民をうまく巻き込んで呼び込むということであればそういうことをやってもおかしくはないのかなと。1館ではなく全館でやれば効果的だと思います。

説明員

おっしゃる通りです。PRなどは今後考えていきますが、今も色々な教室につきましては各館でチラシを学校等に配布しておりますけれども、あるいは市民の方の目に触れるというところで広報の活用やホームページの活用はしておりますけれども、足りない所もあるかと思しますので、できるだけ色々な方策を考えながらやっていきたいと思っております。

委員

例えば新聞折り込みなんかをやろうとすると、何館かでやろうとしてもかなりの金額になるかと思うのですが、そういう予算というのは目途がつくものなんですか。かなり厳しいのではないかと思うんですよ。

委員

だからもしもうちょっと安くあげようかと思ったら、回覧板で回すとかだと安くなると思いますね。印刷代自体は館にある輪転機を使えば1枚1円いくかいかないかですから、そういうことで経費は捻出してもらってもいいのではないですか。最初からお金がかかるから駄目だとかそういう問題ではない。どうやってお金を取り出してくるかという、それをやらなければ前に行かないと思います。

委員

回覧板に入れるのはいいかもしれませんが、あれは費用かかりませんよね。

説明員

重要なところではやっておりますが、どの程度どういう風なアピールの仕方、関係のあるところには出すとか、関係のないところには出さないとかもありまして、なかなか広報に載せたものについては二重にやらないとかいうものの中にはありまして、広報にも掲載して回覧板でも回すと情報が二重化して複雑化してしまうのではないかといいところも中にはありますけども、そういうことも含めながらぜひ情報をタイムリーに伝えていけるような方策等、皆さんの意見を参考にいたしましてやっていきたいと思います。

会長

ここで配られることはあまりありませんでしたけども、博物館だよりをつくっていますが、あれは市民全体には行っていませんね。あれはどういったところへ送っているのですか。

説明員

関係するとか他の市町村の博物館などにも行ってますし、個人向けという意味では多くは寄贈等をしてくださった方とか、企画展や色々な事業で協力をしてくださった方とかというところに主に送っています。印刷部数が限られていますので、市の施設では配布しておりますのである程度はお目に触れるようなところにもあるはずですけども、なかなか皆さんのところには行き渡らないと思いますので、ホームページの方に PDF をそのまま見られるように掲載はしていますので、そういう形でということになっています。

会長

博物館だよりを一軒一軒はとてもじゃないですけど回せませんので、委員の言うように回覧板で各地区に回すとしてもかなりの部数が必要になりますかね。中津川市全体を入れると相当な数がいらいますか。

説明員

1万枚ほどですか。

委員

逆に言えば1万枚あれば各家庭1枚ずつできますか。

説明員

戸数だと2万ほど必要になります。

事務局

回覧板ですと、区とその下の町内会部分になるのでそれでも 1 万部程ですか。

委員

先程ちょっとおっしゃった一つの広報に載せたからいいというのは一方的な見解であって、テレビ通販のように一時間同じことをやって埋め込むというかそれぐらいのことをしないとお客さんは来ないと思います。

説明員

委員がおっしゃっていたように、どうやって皆さんに知っていただくかというの大事だと思うんですね。自分のところでなく他の所もそうだと思いますが、一斉に今度企画展をやりますと流しても絶対に人は来ません。それは新聞社に行って、電話か訪ねて行って直接言うとほとんど書いてくれます。そのようなことをすると書いてくれるということなんです、これもまたうまくいかなくて、書いたから来るかという委員がおっしゃったように繰り返しじゃないと 1 回やっただけでは来ないんです。それと順番がいくつかあって、この新聞社は小さいように見えてものすごく効果があるとか、そういう新聞によって書き方が色々違うので、そのことが一つと、やはりあの一番大事なのは、委員は人数でおっしゃいましたが、例えば六斎市があって、その時は前に立ってこういう展示でこういうことがあるからこういう風に見ていただくと嬉しいですよと直接呼びかけていくということが、お客さんが必ず来てくれたりリピーターになってくれたりするコツだと思います。それはそれぞれの館でボランティアの方とか、色んな形でやっているの、言われたことを総合的にしてできるだけ市民の方に来ていただきたい。それは何故かという市民の方の税金でやられてる施設なので、それを努力していきたい。私もそうですし、皆さんと一緒にやっていきたいと思います。

説明員

今委員の方からもお話がありましたし、各館がもっと PR をしたらどうだというお話がありました、現にそれはやっているんですね。例えば科学館で言えばですね、ホームページをご覧いただいたことはありますか。ホームページにもトピックスとかあるいは土曜教室コーナーなどを紹介で出していますし、それから各学校には、幼稚園・保育園から中学に至るまで子ども科学館では年に 4 回、大体 3 か月に 1 度くらいずつ科学館だよりというのを発行して各ひとりひとりに渡るように学校の方をお願いして配っております。後は広報ですね。広報に博物館だよりというのがある、各館がどのようなことをやっているかわかるような形で、結局何もやっていないのではなくて、それぞれにやっているのですが、それはやり方が足りないのかもしれないですし、それからやっぱりこれだけ発信しても最終的には受け手の方の熱意ということもあると思います。実際記事等を読んでそのままという場合もありますし、中にはホームページで読んだのでぜひ行きますと言って、下呂の方が土曜教室に子どもさんと来館したこともあります。ということで手は色々打っているんですけ

ど、それが結果に表れるということがなかなか出にくいのは非常に悩むところ
です。

委員

今はまとめてコストを削減しながら、大量に色んなところというお話でし
たけども、やっぱり内容の問題で、すごくキャッチーなものでまさにうちの館
としてはこれを今やっているということを、一年に一回でいいので、これだけ
知ってもらいたいというものをピンポイントでやらないと、全部合わせてやる
とそれは広報と同じ状態になってしまうので、まず企画を練って、人の気持ち
を掴めるというものを練り上げてから広報を打つというのが順番じゃないか
と思うんですね。できるだけ幅広い人の目に触れて、回数もあるでしょうけど、
子ども科学館のチラシや鉱物博物館のチラシや、その他の配布物も学校の配布
物として必ず出してもらっているんですけど、あれはじわじわと効いてると思
います。チラシを見て一回行ってみたいと思ってみても、参加したいとアクシ
ョンを起こして電話して予約してという、前も一度そういうお話がでましたけ
れども、そこにいたるまでが少し時間がかかるのであって、周知されていると
いう意味では結構色々な子どもの声が聞こえてきます。誰々ちゃんはこの間お
母さんと行ってきたよとかそういう話がじわじわと集まってきて、結構皆さん
に周知はされているのではないかなという風を感じています。後は宣伝、宣伝
というよりは、例えば先程のコンサートの話もそうですけど、ここでコンサ
ートを開いてこういう風になりましたということが伝われば結構興味があって
行かれないという方も増えるのではないかなと、そういうキャッチーなことを
ひとつとらえてそこに人に集まってもらって、それをきっかけに通っていただ
けるようなになれるというのが理想の形じゃないかなという風を感じるのす
けど。

会長

他に何かありますか。それぞれの館がそれぞれに工夫して何とか集まらない
か、人が来てくれないかということで努力をしてみえるということはよくわか
るんです。ただもう一つ何かちょっともう一工夫、もう一段階上っていきたく
いなあという気はします。

委員

全国で見ると、どこかしら PR なんかも成功されてるところはある
と思うんですが、そういったところのリサーチとかはされていますか。成功例
みたいなものを集めて、同じようなことをしたりとかしたら違ってくるのでは
ないかと思うのですが。

会長

中津川でのことではなくて他の地域で頑張っているような例のリサーチで
すね。リサーチしてその方法は何をしたら皆さんに受けているのかという核心
部分を探る当てるということですね。そういうリサーチのようなことはやって
みえるのですか。

説明員

具体的にこれだというものはないわけですが、ホームページだとか色々な情報は来ていまして、そのところからもチラシだとかポスターだとかを各館で共有しながらやっているというようなところで、そういうことを参考にしながらもやっているんですけれども具体的にそこまで突っ込んだリサーチ等は行っておりませんので、委員からのご提案をしっかりと受け止めまして、どれだけできるかわかりませんが、いいものはぜひ見習ってやっていきたいと思っておりますので、またこういうところが良かった等ありましたらご教示お願いしたいと思います。

説明員

リサーチと申しますか、私どもの館もそうですし、館の共同の集まりでもよくお話をさせていただくのですが、大阪府は橋本知事が文化会館や博物館などの施設は全部利益にならないから潰そうという風にこの4年間やってらしたんですね。そこで生き残った館というのがあるんです。具体的に言うと弥生文化会館（大阪府立弥生文化博物館）というのですが、ここはいつも駄目と言われ、予算が切られて、やめさせられそうになったのですが生き残った。何故かというのが全国の色んな博物館が目指すものになってますが、それはとにかく市民の方にたくさん利用してもらおう。そのためにはこちらで見せてあげるから来いというだけではなくこちらから出かけて行って、とにかく宣伝だけではなくてこういうものがあるということをきちんと示す。それから先程鉾物博物館でもこういうアイディアの中でやられましたが、コンサートをやる。弥生博物館では縄文の土器の色んな中でバイオリンのコンサートなどをやっております。そういうのはミスマッチなようにだけども実はそうじゃないというのと、あとは夜に行なったりと色々な形のものでございます。それから服を着せる体験のような体験活動、これは子ども科学館や鉾物博物館がやっています。それから鎧づくりなんかは遠山史料館がやっていますが、そういうことを少しずつ取り入れながら、ただ残念ながらちょっと違うのは、あちらは大阪府ですから予算が違う。潰されそうになっても多いと。それから人数が多い。そういうところがあってカバーしきれない部分はありますが、これからそこは足りないのでは、そういうところを目指しながら我々はよくしていかなければいけないと思っております。ありがとうございました。

会長

結局どういう風にして一人でも多くの方に来ていただけるかというそのところに毎回焦点が行ってしまうわけですが、今リサーチという話が出ましたけれども、テレビを見ても博物館ではない他の問題でも、あんな山の中のあんなお店にその村の人口の何倍かの人が行くという。そこにはきっと何かひきつける何かがあるのですよねきっと。あれは博物館の話ではないよと言うのではなくて、博物館とまったく違ったところでも、そういうところからヒントが得られるのかもしれないですね。テレビだとよくそういう話題がやってい

るのですね、こんなところによく人が集まるなという。今日リサーチという話がでましたので、展示物ひとつについても展示の仕方というのを他の博物館を見に行くと、きっと驚くような展示の仕方があるだろうと思いますので、そういう意味でまたリサーチをする。また行けなくても誰か行った人の話を聞くというようなことをするのは無駄なことではないなと思いますけども。他に何かご意見等ありますか。

委員

やっぱり一番最初はアイデアだと思います。それがうまく出せないと人を惹きつけられないと思いますので、そのアイデアを出すところがとても難しいと思うのですよ。そこをどうやってアイデアを出していくかというところをまずそれぞれの館の人にも一生懸命考えてもらっていますけれども、そこだけではなくて他からもアイデアを持ってこれるという、他からも提案してもらえるとということも組み合わせると良いアイデアが出ると思うのですけども。やっぱり最初のアイデアが人を惹きつけるとか来てもらうとかそういうところに繋がるのではないかと思うのですが。

会長

アイデアという話が出ましたが、きっとどの館も入館者が帰っていかれる時、全員ではないと思いますけども、アンケートを作っていると思いますが、そのアンケートを見てみると中に色んなアイデアがあるかもしれませんし、アンケートそのものの質問項目がどういう項目をつくったらいいとか、あなたが感動を受けた全国の博物館でどういったところがありますかということのひとつ項目をつけておくだけでも違うと思います。それを手掛かりにリサーチできるということもあると思いますので、アンケートの形式そのものを一度考えてみると。それからアンケートを出してくださった方の集計をしながらその中からアイデアを探し出していくと、こちらでそういう目があればきっと見えてくるものもあるのではないかと思います。他に何かないですか。

委員

先程恵那市の浮世絵博物館（中山道広重美術館）の話が出ましたが、あそこの一つの集客の良いというか、そんなに入っている感じはないですけど、ある一定のレベルを、水準を保って良いものを展示してあるという感じがして、建物も綺麗ですし、予算がかかっていることの他に集客の大きな要素は浮世絵であるという、浮世絵が展示してあるというすごくピンポイントでわかりやすことじゃないかなと思って、浮世絵を観たい人はあそこへ行けばいいというのがわかりやすいと思います。前田青邨先生の美術館なんかもそうであったと思うんですね。以前にも話しましたが、名古屋の美術大学に在籍中に先生が生徒を引率して、前田青邨を観に行こうと言ってここまで来たことがあります。そうやって見ると市の施設の中では鉱物博物館は全国からも興味のある方はいらっしゃるのではないかと思うのですが、ただリピーターとして何度もという点においては、展示物を入れ替えにくいというような難点があって、なる

べく広い所から興味がある方に来ていただいて見ていただけると集客としては可能性が広がるような気がしますし、他では東山魁夷心の旅路館なども他の地域からという要素があると思いますけど、でも割と地域に根付いて掘り下げて色んな人に何回も参加してもらいながら、地域に愛されながらという点では他の3館と鉱物博物館、東山魁夷心の旅路館ではアプローチが違うのではないかなという風を感じています。もう一点は、私事ですが、以前も中国語で表記してはどうですかというお話をさせていただいたと思うんですけど、先日回転すし店に行ったら、中国からのお客さんが最近結構みえるので、前はお店もお客さんも戸惑っている感じだったんですが、その後に行ったらメニューも写真入りのものができて、それを見れば注文がスムーズに行くようにして、お客さんも口コミでそれを知っていてたくさんいらっしゃるというお話を目にしたので、こういうことでコミュニケーションが取りにくかった、じゃあ次はちょっとしたこと誰かできる人にちょっと通訳してもらうことでこれだけスムーズになったという小さなことですがこういうことを繰り返していくことで少しずつ良くなっていくのではないかと、中国の方も今経済的には不安な部分がありますけど、最初取りかかりとして一度日本に来ていただいた観光の方は、引き続き日本の文化に興味を持ってくれたり、田舎の美しい風景や色々なものに興味を持ってじわじわと来ていただけたらと思っておりますので、そういうことも準備していただけたらいいかなと思います。

会長

案外どこどこで繋がっていくかわかりませんが、上野の国立科学博物館に行った時に驚いたんですけど、苗木産のトパーズとか水晶、フェルグソン石などが岐阜県の中津川市だったか中津町と書いてあって、東京に苗木産の石があるのかとびっくりしたことがあって、案外そんなところの繋がり国立科学博物館の方へ鉱物博物館のチラシを配って掲示してもらおうとか、苗木と言ってもわからないと思いますので、そういうあらゆることを考えて大変でしょうけどもあらゆることで大事にしなければいけないと思いますね。委員のおっしゃったりサーチの話で、案外思わないところでひっかかってくるかもしれませんね。

僕からも一つ質問したいのですが、先程部長さんがおっしゃった平成28年度にむけての市街地活性化の問題になった土地ですが、そこへ文化施設をという話が出ましたが、それは計画を作ることなんですか。

部長

はい。今文化スポーツ部の方針と重点の中で、環境の設備の項の説明の中で、中心市街地、旧ユニーの跡地の中で文化施設、これはまだ機能が定まっておりますものですから平成28年度に基本計画を作っていこうということでございます。皆さまの意見をいただきながらどういう内容がいいのか、どういう機能がいいのかということをして28年度に完成ということではないですけども、28年度から作っていきたいということでございます。ですので、文化スポーツ部

としても文化振興課、青邨記念館という施設を去年壊したわけですがでも館長という名はまだ残っているわけですので、一緒になって考えていきたいと思っております。

会長

まずリニアの話が出てしまいますけれども、中心市街地の活性化というところと絡めながら一遍アイデアを、博物館の方としても出していくというのが大事ではないかと思えます。それぞれ先程話が出た、どの館も建物が老朽化したり、借りている建物を返さなくてはいけない時期が来たりというところに来ておりますので、大変だろうと思えますけれども我々も頑張らなければならないと思えます。

委員

最後にお礼を申し上げたいと思えますが、学校は色々なお子さんがおいでになるわけですが、例えば不登校気味のお子さんがいらっしゃる時に館の方に何回か足を運んでですね、そういうのが登校のきっかけにもなったという事例が私たちの方にも報告が入っております。そういった点で幅広く学校教育のみならず社会的に受け入れてもらうというのも大変貴重なことですので、今後とも子どもを惹きつけるようなそういうアイデア溢れる事業をぜひ継続していただけることをお願いしておきたいと思えます。

会長

他に何かございませんか。

委員

宣伝の部分で言わせてもらおうと、私たち世代はジョイセブン、maika、恵峰新聞この辺りが広報よりも見るので、この辺りに働きかけをとというのは以前城山が maika の全面に出た時には、こんなところなら今度一度行ってみたい、一緒に登ろうねという話をしたので、先の三紙が本当に利用価値があると感じます。個人的な話で言うと、息子が中学一年生ですけど、先日美術の鑑賞テストというのがあって、その中にモナ・リザとかの洋画の中に熊谷守一とか前田青邨とかそういった絵が混ざっていたわけなんです。そうしたら前田青邨の絵を見て、西小だったのでそれこそ安藤さんに教わって、エクスカッションで何度も中山道歴史資料館に足を運んで勉強したんですね。そうすると自信を持って青邨の話をしてくれるんですよ。法隆寺に行ってこういう風でという話も全部してくれて、私生まれも育ちも中津川なんですけど青邨記念館も行ったことがなくて、子どもに教えてもらったんですけど、今の子供たちは中山道歴史資料館とか鉱物博物館とかへ学校から行って、自信を持って言えるようになっている子どももいて、本当に学校への働きかけというのは嬉しいです。私もそれに影響を受けて、それじゃあ今度は一緒にここに行ってみようねというようになるのでぜひ続けてやっていただけるとありがたいです。

【会長】 以上で協議会を終了します。お疲れ様でした。

会議資料	<ul style="list-style-type: none">・平成27年度各館事業報告・平成28年度文化スポーツ部の方針と重点（案）・平成28年度各館事業計画（案）
管部課	中津川市鉱物博物館